

オリエンテーリング競技用地図レベルでヨーロッパに追いつきたい。その情熱が日本の O-map のレベルを進歩させていった。

そして記念すべき第一回全日本大会が開催される。

初期の O-map

OL の先進国、ヨーロッパの国を見てもまず始めに使ったのは汎用地形図と聞いている。わが国でも初期の頃、ほとんどの大会で国土地理院 1:25,000 の地形図や市町村の行政図を O-map 風アレンジしたものが使われていた。1970 年代の競技会では地図と現地の不一致が多い地図で、総力を主とした、大きな特徴の読み取りが必要で、運・不運が競技成績を左右することが多かったように思う。

埼玉県高麗の O-map

1973 年、狭山丘陵の O-map の作成を手がけ、OL での専用マップの重要性を痛感した私達は、1974 年の春、埼玉県高麗地区を次の O-map 作成のゲレンデ（現在でいうトレイン）として選んだ。ここは 1972 年の春、国民体力作り協会（日本 OL 委員会）が全国に OL を広める第一歩として、OL パーマネントコース開設の記念大会が開かれた地域である。ここはクラブの本拠地からも近く、良い O-map ができれば、良い競技会のためにも、またクラブのトレーニングの場所としても活用しやすいとの考え方だったと思う。計画の段階ではいくつかの事が問題になった。

(1) 地図表示の色数

黒一色では等高線と道・植生界が、重なったり隣接しているものは判別し難いし、小川や水路も表示し難いなどの点から

黒：人工物 茶：等高線 青：水系の 3 色で表示することにした。

汎用の地形図では等高線は滑らかに見易く編集されているので、これを修正し、小さな尾根や沢、こぶなどを表示することが地図調査の第一歩だったし、また競技時のルートとな

る小道や小径をすべて拾い上げることも必要であった。小さな特徴や通行可能度の表示についても検討したが、未だ経験が浅く、等高線の修正と道の調査を最重要点とした。

(2) ベースマップと縮尺

1970 年代、O-map の縮尺その他地図作成に関して IOF では討議され、O-map 作成の骨子はできていたが、私達は情報不足であった。当時のスウェーデンその他の多くの国の O-map の縮尺が 1:20,000 であったので、今回作成する O-map の縮尺も 1:20,000 に落ち着いたように思う。

ベースマップにはこの地域の国土基本図（1:5,000）を採用したが、そのままの縮尺では製図時に多くの難題を残してしまった。図面の拡大・縮小が安価にしかもたやすくできる現在から考えると何と無駄の多い作業をしたことであろうか。この頃の日本の OL 競技レベルを考えるとベースマップ 1:5,000 の縮尺で完成時の O-map が 1:10,000 のほうが現状に合っていたと思う。

(3) 空中写真の活用

1:5,000 の国土基本図をベースに調査を開始したが地域によっては何処を基点に調査に着手してよいか判らないことが度々起きた。このため現地調査の補助に空中写真の活用を考えてみた。当時この地域で撮影された空中写真の縮尺は 1:20,000 であったから、ゲレンデ（トレイン）全体は 3 枚で立体視ができた。中央の写真の 1 枚だけは 4 倍尺のものを用意したので基本図との対比が容易にできた。

空中写真は、現地調査の前に立体視しておけば地図にない小径までほとんど判別でき、また調査結果がベースマップとひどく異なる時など、確認するてがかりともなった。

この時作成された地図は 1974 年の東日本大会に転用されたが、その後 1977 年に再調査し、1:15,000 の地図となって競技会に使われた。

七国峠の O-map と全日本大会

1974 年東日本大会の後、埼玉県飯本市と東京都青梅市にまたがる七国峠の O-map 作成が計画された。本来は多摩

OL クラブ主催の OL 競技会で使用する予定であったが、日本 OL 委員会の要請で全日本大会のために使われることになった。この地図では、耕作地などのオープンエリアを表示するため、黄色を加えることにしたが、通行可能度の調査・表示は先送りとなった。

この時のベースマップとしての国土基本図は調査予定面積の 3/4 くらいしかなく、面積の 1/4 は青梅市発行の行政図（1:3,000）を縮小し、国土基本図に無理につないだ。当然のことながら両者の等高線はくいちがっていたが、地形表示ができるだけ変わらないよう配慮し、行政図の等高線をずらしていった。乱暴な話であるが当時としては致し方なく、内容的に問題点を残してしまった。

その後、多摩 OL クラブでは 1975 年 11 月に再調査して、通行可能度 2 段階表示 1:16,667 の O-map を作成して競技会を開き、さらに 1978 年 12 月には通行可能度 3 段階表示、縮尺 1:15,000 の O-map を作成でき、ようやくヨーロッパの O-map のレベルに近づいた感じであった。

（つづく）



佐藤綱一

現在長野県松本市在住
公民館館長として地域の子供を対象にオリエンテーリングイベントを企画している。